

(様式1)

校種	小・ Ⓜ	学校番号	6	学校名	宇都宮市立星が丘中学校
----	-------------	------	---	-----	-------------

平成28年度 学校経営計画

1 教育目標

(1) 基本目標

- ① 健康で気力のある生徒を育成する。
- ② 学力豊かで創造力のある生徒を育成する。
- ③ 勤労を尊び責任感のある生徒を育成する。
- ④ 国際感覚に秀で思いやりのある生徒を育成する。

(2) 具体目標（具体的な児童生徒像など）

- ① 気力あふれるたくましい生徒
- ② 自ら学び考える生徒
- ③ 進んで仕事をする生徒
- ④ 豊かな心と思いやりのある生徒

2 学校経営の理念

学校の自主的・自律的な経営の下，21世紀の知識基盤社会を生きる人間を育てるに当たって，確かな学力，豊かな心，健やかな体の調和を重視する「生きる力」を育むことを重視し，未来を切り拓く力を育てる教育を実践する。

3 学校経営の方針

平成26，27年度での50人近い大量の人事異動により，組織としての揺らぎのないように，平成26年度は「継承と構築」，平成27年度は「意欲と精選のバランス」を経営方針のスローガンとして取り組んできた。学校評価は概ね良好な結果を得られたが，多くの課題も確認できた。課題解消を図りながら，新たな星が丘中学校として地域や保護者から信頼される，より良い学校経営に努めたい。

(1) 確かな学力の定着

・授業時数の確保と学習指導要領に基づく授業の展開と工夫，個に応じた指導の中で，基礎的・基本的な知識・技能等の育成や思考力・判断力・表現力等の育成，さらには指導と評価の一体化を推進し，確かな学力の定着を図り，「わかる授業」の推進に努める。

(2) 心の教育の推進

・読書活動，あいさつ運動，心に響く道徳教育，国際理解教育，福祉教育等の充実を図り，教育活動全体をとおして，思いやりにあふれた心の教育を推進する。

(3) 生徒指導の充実

- ・一人一人の家庭的な背景を踏まえながら，生徒とのコミュニケーションを重視し，信頼関係の構築に努める。
- ・生徒の自律を促すための「育てる生徒指導」（自己指導力・自己肯定感の育成）の推進を図る。
- ・様々な問題に対して家庭や他機関との連携を図りながら組織的に取り組み，解決・解消に努める。

(4) 健康・体力の向上

- ・食育の充実と健康的な生活を送るための指導の充実を図る。
- ・新体力テストの結果を活用し，進んで運動に取り組む態度の育成と体力の向上を図る。

(5) 特別支援教育と教育相談の充実

- ・生徒一人一人のニーズに対応した支援活動の充実が図れるよう，校内特別支援委員会を中心に組織的に取り組む。

- ・不登校の防止や解消，生徒一人一人の悩みの解消を図り，明るい学校生活を実現するために，教育相談の充実を図る。

(6) 家庭・地域社会との連携と開かれた学校づくりの推進

- ・地域の教育力を生かし，家庭・地域社会との連携と開かれた学校づくりに努めるとともに，地域に信頼される学校づくりを推進する。

(7) 教職員の使命感の発揮と資質の向上

- ・時代や生徒・保護者のニーズに応えるため，教職員としての使命感に徹し，協働体制のもとに各自の特性の発揮と資質の向上に努める。

「星が丘地域学校園教育ビジョン」 未来を切り拓く豊かな社会性の育成

4 今年度の重点目標（「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○）

(1) 学校運営

- ・自らの課題を組織的に解決できる自主的，自律的な学校経営
～生徒と向き合う時間の確保のための工夫・改善～

(2) 学習指導

- ・意欲的に学習に取り組む生徒の育成

(3) 生徒指導

- ・家庭・地域と学校が連携し，生徒一人一人の豊かな心の育成
- ・生徒の良さを見つけ，褒めることを通して，自己肯定感や誇りを持てる生徒の育成

(4) 健康（保健安全・食育）・体力

- ・生徒が自己の健康・体力を的確に理解し，進んで健康・体力の向上に励む生徒の育成

5 学習指導，道徳教育（児童生徒指導），健康（保健安全・食育）・体力に関する取組

【学習指導に関する取組】

1 学習指導上の主な実態

(1) 全国の調査、栃木県の調査、宇都宮市の調査から

※2年生の実態は栃木県の調査（4月実施）、3年生の実態は全国の調査（4月実施）、宇都宮市の調査（12月実施）より

国語・社会・数学・理科・英語は2、3年生ともすべての領域・観点で、全国・栃木県・宇都宮市の平均正答率を上回っている。国語は「話す・聞く能力」は2、3年生ともに80%を超える正答率であるが、2年生の「読む能力」は60%台「書く能力」は50%台の正答率にとどまっており課題である。数学は各領域・観点もバランスよく理解できているが、「数学的な見方・考え方」のさらなる向上が望まれる。英語はバランスよく理解できているが2年生は「読むこと」3年生は「書くこと」が他の領域に比べ正答率が低くなっている。社会は「資料活用の技能」、理科は「科学的な思考・表現」の観点に向上の余地が見られる。

(2) 学習と生活についてのアンケートから

※学習内容定着度調査（12月実施）より

- ・2年生は「勉強が好き」、「授業がわかる」という肯定割合が市より10ポイント程度高い。1、3年生の肯定割合は市より若干低い（1～5ポイント程）ものの、意欲的に取り組んでいる。
- ・「授業への取り組み」では各学年とも「学習準備」や「返事」「話をしっかり聞く」など肯定的な回答が高く、市の肯定割合を上回るものが多い。

- 家庭における平日の学習時間が1時間30分以上の割合が1年生46.6%、2年生57.6%、3年生87.7%と学年が上がる事に多くなっているが、習ったことを「その日のうちに復習する」「何度も繰り返し練習する」の肯定割合は40%台で市より低い割合にとどまっている。

(3) 授業等への取組状況から

※「うつのみや学校マネジメントシステム」全体アンケートから

- 朝の読書への取り組みが定着しており、落ち着いた状態で授業に臨むことができている。反面、学級や教科によって授業への取り組み方に大きな差が見受けられることもあるため、改善策の検討が今後の課題である。
- 学校行事に向けて、特別活動等の学習を通して意欲的に活動することができる。
- 発表や意見交換の場面でのコミュニケーション能力を発揮する場では、個人差が大きく表現力に課題を残す生徒も見受けられる。
- 全体的に「学力の二極化」が進んでおり、学習の基礎・基本の徹底（反復学習などを含む）、学習習慣の確立（家庭学習を含む）の面の課題は継続しての指導が必要である。

2 今年度の重点目標（地域学校園内で共通する重点目標は文頭に○、または該当箇所に下線）

「意欲的に学習に取り組む生徒の育成」

{	確かな学力の定着
	○自ら学び、自ら考える生徒の育成
	特別支援教育の充実

3 今年度の取組

（地域学校園内で共通する取組は文頭に○、「学校教育スタンダード」に関する取組は文頭に☆）

(1) 確かな学力の定着

- ☆「読み・書き・計算」などの基礎学力をつける反復学習の徹底(学力向上P)
- ☆ 予習・復習を徹底できるような宿題や課題の与え方の工夫(通年)
- 学習の約束と学習方法「五つの約束」の掲示と共通理解（通年）
 - 「チャイムで授業開始」ができる体制作りと生徒への意識付け(通年)
 - 特別支援を必要としている生徒への手立ての工夫（通年）
 - 朝の読書における準備時間の周知徹底（通年）
- 司書教諭との連携による図書を紹介や読書習慣の推進（通年）

(2) 自ら学び、自ら考える生徒の育成

- 継続的かつ系統的な思考力・判断力・表現力の育成（授業力向上P）
（ホワイトボードを活用することで「考える場面」のある授業を実践し、コミュニケーション能力の向上を目指す）
 - 「振り返り」を意識した授業の実践（授業力向上P、通年）
- ☆ ねらいをはっきりと明示する授業の展開（通年）
 - 総合的な学習の時間における探求的な学習活動の充実

(3) 各種調査の分析と傾向の把握・改善へ取り組み

- 各種調査（①学力学習状況調査・②とちぎっ子学習状況調査・③学習内容定着度調査）の分析と結果の公表（①12月、②12月、③3月）
- 各種調査を生かした学習指導の改善（通年）

(4) 年間計画への教科部会の位置づけと評価の工夫

- 評価の共通理解と教科部会における教科内での確認（評価計画表の作成、評価場面・評価基準の検討・定期テスト等の確認）

- ・ 各種調査の分析と分析を活かした授業づくり（授業力向上 P）
- (5) 自己の生き方について考え、歩み出していける生徒の育成
 - ・ 教師間の情報交換と、道徳や特別活動の授業の充実を図るための連携(通年)
 - ・ 総合的な学習の時間を中心とした、教科を横断した課題解決的な学習や探究活動の充実(通年)
 - ・ 各種行事を通した生徒の主体性を生かした活動の充実(通年)
 - 道徳性（「人間愛・思いやり」と「情報モラル」を中心に）の育成（通年）
- (6) 体力づくりと食育の推進
 - 投力の向上を図り、そのための場の工夫（通年）
 - ・ 学級やグループでの体力づくりの奨励（体育祭6月、縄跳び大会1,2月等）
 - ☆ 授業や食育便りを通しての食に関する指導の充実(通年)
- (7) 家庭や地域との連携
 - ・ 家庭における時間の使い方の見直し等の啓発（通年）
 - ・ 学習だよりによる家庭学習の習慣の対する意識の向上(毎月)
 - ☆ 地域や家庭に対する情報の発信・提供(通年)
 - ・ 地域交流事業の充実と、学習支援ボランティアの協力の推進(通年)

【道徳教育（児童生徒指導）に関する取組】

1 生徒指導上の主な実態

(1) 問題行動等調査から

- ・ 暴力行為については、悪ふざけからのけんか的なものが多かった。
- ・ いじめに関しては、言葉によって人を傷つけるものが多く、本校アンケート調査による「いやな思い」を学校生活に感じている生徒は、1年生約10%、2年生約8%、3年生約7%であった。
- ・ 不登校に関しては、不登校傾向の生徒も含め、全校生徒に対する割合は約3%であった。

(2) 学習と生活についてのアンケート～宇都宮市学習内容定着度調査アンケート結果から～

- ・ 読書時間等についての肯定回答割合は市と比較して高く、テレビやビデオ、ゲーム等の時間は短い傾向がみられる。きまりやマナーへの意識、生徒個々の意識や基本的な生活習慣は概ね良好であるが、学年によって差がある。一方、携帯電話の所持率は、学年が上がるごとに高まり、フィルタリング実施率と家庭内ルールの設定率は学年が上がるごとに低くなっている。引き続き生徒への指導、家庭への情報モラルの啓発を繰り返し行っていく必要がある。

(3) 学校生活の状況から

- ・ ひとりひとりがきまりやマナーを守ろうとする規範意識は高く、おおむね授業態度を含めて落ち着いた学校生活が送れているが、集団になると雰囲気の流れに流され、正しい判断ができない場面もみられる。学級差も大きく、先生によって態度が大きく変わる傾向もみられる。
- ・ 他を思いやる心や、正しい判断で自ら問題を解決する力が不十分な生徒も一部にみられる。

2 今年度の重点目標

- ・ 家庭、地域と学校が連携し、生徒一人一人の豊かな心の育成を図る。
- ・ 生徒の良さを見つけ、認めることを通して、自己肯定感や誇りの持てる生徒を育成する。

3 今年度の取組（学校教育スタンダード関連には文頭に☆）

① 基本的な生活習慣の確立

- ☆ア 落ち着いた集団生活、時間の遵守、不要物の持ち込み禁止、清掃及び教室・校舎内外の整理整頓、交通ルールの厳守等、望ましい生活習慣の指導強化
- イ 情報モラルに関する啓発集会と各教科領域における指導

☆ウ あいさつ運動の活性化

- ② 星中生としての誇りを持たせる主体的な生徒活動の推進
 - ア 生徒主体の活動、ノーチャイムなどの自ら考え判断する場、TPOを考える場の設定
 - ☆イ 生徒の善行や親切な行いを互いに認め合う活動を通しての自尊感情や誇りの育成
- ③ 規律ある集団活動の充実
 - ア 学校行事や授業など集団における規律の重視
 - ☆イ 様々な機会での仲間作りによる規律ある学級・学年・学校づくり
- ④ 生徒理解をもとにした生徒指導の充実
 - ア スタANDARDダイアリーでの生徒との交流を通じた、生活の様子、交友関係等の把握
 - イ 生徒と触れ合う時間の確保
 - ウ 教師からの積極的な声かけによる、生徒との人間関係の醸成
 - エ スクールカウンセラー、メンタルサポーター、他機関との積極的な連携
- ⑤ 全校的・組織的な生徒指導体制の推進
 - ア 生徒指導部会、教育相談部会の充実
 - イ 全教職員による課題の共有化
 - ウ 「指導基準」の明確化と一貫性・公平性をもった指導の推進
- ⑥ 授業における生徒指導の充実
 - ☆ア 「5つの約束」の励行
 1. 授業開始時刻前に着席し学習の態勢をとる。(チャイムで授業開始)
 2. 起立、礼、着席の姿勢動作をきちんと行う。
 3. 「ハイ」と大きな声で返事する。
 4. 語尾まではっきり発表する。
 5. 話し手に注目して聞くようにする。
- ☆⑦ いじめ根絶を目指した生徒指導体制の強化
 - ア いじめ根絶集会による学びの時間の設定
 - ☆イ いじめを発見するための巡回、教育相談、アンケート調査等の計画的実施
 - ☆ウ 道徳や人権教育等による「豊かなこころ」の育成
- ⑧ 家庭・地域・関係機関との連携強化
 - ☆ア 家庭・地域・学校園・関係諸機関との連携
 - イ 地域の体験的・奉仕的活動への積極的な参加
 - ウ 家庭訪問や教育相談の計画的実施と生徒指導だよりによる家庭への情報発信
 - エ 不適応傾向生徒の早期発見、早期対応
- ⑨ 安全、安心のための指導体制の確立
 - ア 交通安全教室や登下校指導及び不審者対策避難訓練の実施
 - イ 警察等からの不審者情報の生徒・保護者への提供

【健康（保健安全・食育）・体力に関する取組】

1 健康（保健安全・食育）・体力に関する主な実態

(1) 定期健康診断・元気っ子健康体力チェックから

- ・本校の生徒の体格は、各学年とも県の平均かそれ以上である。また、低視力者が各学年ともに増加傾向にあり、特に2学年の低視力者の割合が高い。健全歯保有者の割合は横ばいだが、処置完了者率は昨年よりも増えてきている。
- ・新体力テストの結果から、ほとんどの種目が県平均を上回っているが、ハンドボール投げや50m

走の結果が県平均より劣っている。

- (2) 元気っ子健康体力チェックのアンケート及び学習と生活についてのアンケートから
- ・学年が上がるにつれて、朝食の欠食や好き嫌いをする割合が若干増加する傾向がみられる。また運動をすることは大切だと感じてはいても、積極的に運動を生活に取り入れていく機会は少ない生徒が増えている。
- (3) 授業や体育的行事等への取組状況から
- ・体育の授業や体育的行事に積極的に取り組む生徒が多い。特に体育行事については、そのための練習を、朝や昼休みなどにも行う姿がみられた。

2 今年度の重点目標

- ・生徒が自己の健康・体力を的確に理解し、進んで健康・体力の向上に励む生徒の育成

3 今年度の取組

- (1) 望ましい食習慣の育成
- ・食のマナーの向上（通年）
 - ☆「おべんとうの日」の実施
 - ・3年生の保健体育『食生活と健康』で栄養教諭とのT・T授業の実施（9月）
- (2) 健康・体力の向上
- ・投力の向上（通年）
 - ☆新体力テストの結果分析による補強運動の実施
 - ・生徒会による体力向上キャンペーンの実施（10月～2月）
- (3) 家庭・地域との連携協力
- ☆保健だより・食育だよりの発行（通年）
 - ☆警察などと連携した防犯教室、防犯避難訓練の実施
 - ・性教育講演会・薬物乱用防止教室の実施（7月～12月）

6 特色ある学校づくりに関する取組

- (1) 育てたい資質・能力（「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○）
- テーマ 「自分の生き方を自分で見つけることのできる生徒の育成」
- ①自律し、自己実現をめざして努力しようとする態度や能力（自律と自己実現）
 - ②豊かなコミュニケーション能力（人間関係構築・表現）
- (2) 具体的取組（提案型予算「頑張る学校プロジェクト」関連には文頭に◇）
- ①課題解決を目指した2つの研究プロジェクト
- 【学力向上プロジェクト】
- ・全国学力・学習状況調査やとちぎっ子学習状況調査、学習内容定着度調査等の分析と活用
 - ・授業力向上を目指した公開授業や校内研修の充実
 - ・基礎・基本の定着を図るための取組の工夫
- 【体力向上プロジェクト】
- ・新体力テストの結果の分析と活用

- ・「投力の向上」を中心とした保健体育科の取組の工夫
- ・学校行事や生徒会の委員会の取組の工夫
- ・地域人材を活用した取組の推進
- ②地域人材と連携した豊かな体験活動の実践
 - －総合的な学習の時間の充実～自ら学び、考え、実践する生徒の育成－
 - ・生徒の探究活動の充実と探究意欲の向上を目指したプログラムの作成
 - ◇地域をフィールドとした調査研究活動の充実
 - ◇地域の学習資源を活用した活動の充実
 - ◇地域人材を活用した講演会等の実施
 - ・集団の中で育てるコミュニケーション能力の育成
- ③「伝え合う力」の育成－言語活動の充実－
 - ・「言語活動の充実」を意識した授業の工夫
 - ・学級活動におけるグループ活動や話し合い活動，人間関係づくりのためのエンカウンター等の工夫
- ④福祉教育や国際理解教育，ボランティア活動の充実
 - ・地域行事への参加・協力
 - ・地域の高齢者施設等への訪問
 - ・「小さな親切運動」への参加
 - ・国際理解教育に関する授業研究や国際交流員による授業の実践
- ⑤他の研究機関と連携して高める教師力の向上
 - ・外部講師による職員研修の充実
 - ・特別支援教育における小中高の連携の推進および研修の充実

7 本市の重点施策・事業と関連する取組（地域学校園内での共通する重点目標は、文頭に○）

(1) 「小中一貫教育・地域学校園」に関する取組

- ①地域学校園の全体研修や各部会・分科会の充実
- ②小中一貫教育カリキュラムに関する取組の充実
 - ・9年間の系統的な指導を図るための各教科の年間指導計画の見直しと実践を通じた改善
 - ・「宮っ子心の教育」「宮・未来キャリア教育」「元気アップ教育」の年間指導計画の整備・充実
- ③乗り入れ授業の充実



(2) 「地域とともにある学校づくり」に関する取組

- ①地域協議会の活性化
 - ・学校ボランティア（図書ボランティア，花壇づくりボランティア等）の充実
 - ・地域行事への積極的な参加・協力
- ②「地域」テーマにした総合的な学習の時間の充実
 - 1年生：地域を知る 2年生：地域に学ぶ 3年生：地域に貢献する

(3) 「宮っ子心の教育」に関する取組

- ①道徳教育の充実
 - 豊かな心を持ち，主体的に生きる生徒を育てる「宮っ子心の教育」の推進
- ②「育てる生徒指導」（自己指導力・自己肯定感の育成）の推進
 - 心の通うあいさつと相手を思いやる言葉遣いの励行

- ・いじめ根絶を目指した組織的な取組の充実と生徒会の委員会活動の推進
- ・トークンシール(オレンジシール：良い行いを認める)を用いた生徒会の委員会活動の推進

③体験的な活動を通しての心の醸成

- ・生徒会のボランティア委員会を中心とした地域行事への参加・協力
- ・「小さな親切運動」の展開
- ・県立聾学校や富屋特別支援学校との交流活動の推進